

平成28年 東京都のHIV感染者・AIDS患者の動向及び 検査・相談事業の実績

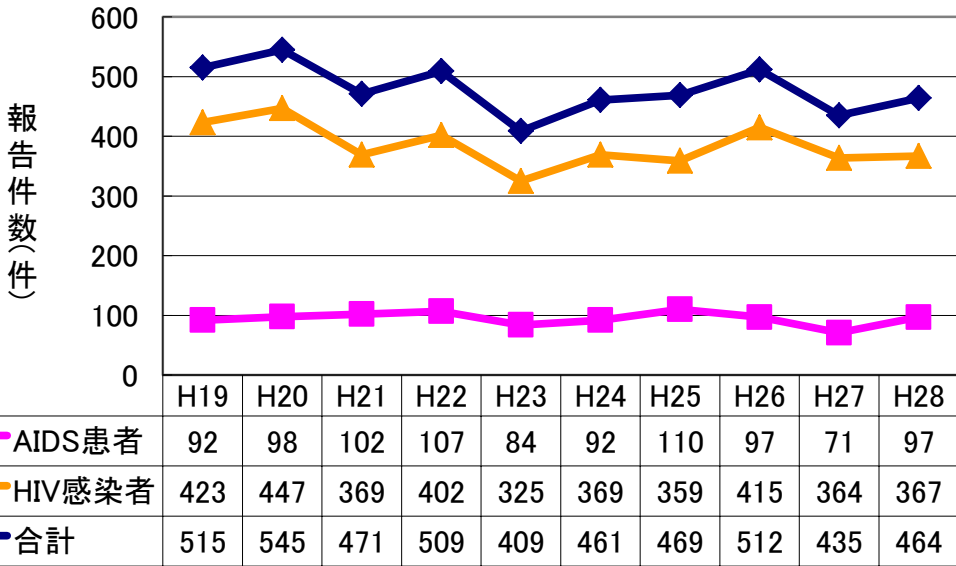
平成28年のトピックス

- 1 新たに報告されたHIV感染者・AIDS患者を合わせた数は464件で、前年から29件増加した。HIV感染者は前年から3件、AIDS患者は前年から26件増加した（図-1）。
- 2 HIV感染者・AIDS患者を合わせた報告数の概要として、主に以下のことが挙げられる（図-2、3、4）。
 - ・外国籍男性は前年から11件増加し、過去最高となった。
 - ・性的接触による報告数は89.2%で、男性同性間性的接触による報告数が76.5%と多い。
 - ・HIV感染者報告数は20～30歳代に多く、AIDS患者報告数は30～40歳代が多い。
- 3 HIV/AIDSの電話相談件数は16,751件で、前年に比べて約25%減少した（図-5）。HIV検査件数は24,508件で、前年に比べて約6%減少した（図-6）。
- 4 HIV感染症と同様に性感染症である「梅毒」は、新たな患者報告数が1,673件で、感染症法に基づく調査が始まって以来、最高となった（図-7）。
 - 男性同性間性的接触に加え、平成26年以降、男女共に異性間性的接触による患者報告数が急増している（図-8）。
 - 男性は20～50歳代に多く、女性は20歳代が急増している（図-9）。

★都民には、HIV/AIDSの早期発見・早期治療に結びつくよう、HIV検査とともに他の性感染症検査を積極的に利用していただきたい。

1 HIV感染者及びAIDS患者の発生動向

図-1
HIV感染者及び
AIDS患者報告数
推移
(過去10年)



ひとくち
メモ

HIV感染者：
HIV（ヒト免疫不全ウイルス）が体内に入り、感染しているが、「発症」していない状態。

前年と比べ、HIV感染者は3件増、AIDS患者は26件増の報告数であった。

本報告は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて、平成28年に報告されたHIV感染者とAIDS患者の統計及び区・都の保健所等における相談・検査業務の実績をまとめ、分析したものである。

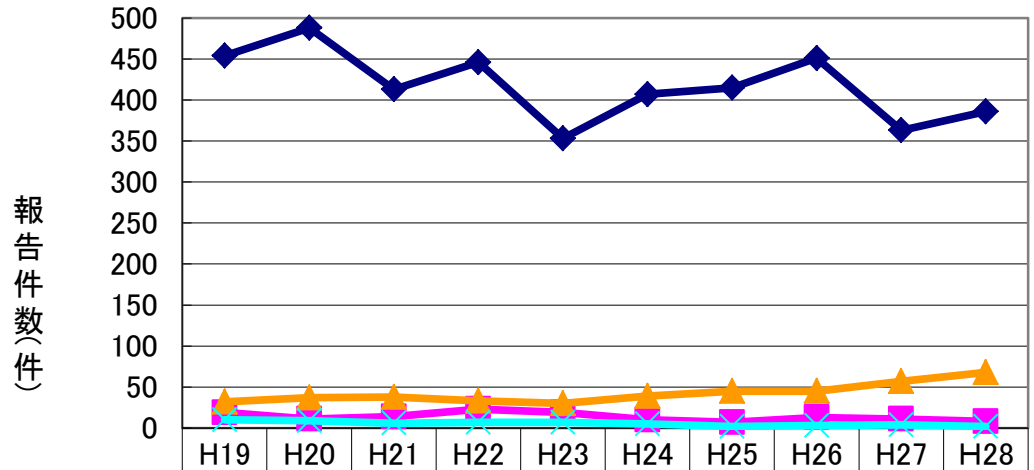
なお、HIV感染者・AIDS患者の報告数、相談件数、検査件数については、過去のデータを見直し、更新されている。

また、図表中では、平成をH、東京都南新宿検査・相談室を南新宿と記載している。

図-2
HIV感染者及び
AIDS患者
国籍、性別推移
(過去10年)

ひとくち
メモ

AIDS患者：
HIVにより免疫機能
が低下し、
「指標疾患」に
決められた疾患
の症状が認めら
れた場合。
無治療の場合、
感染から症状が
出るまで、数年
から10数年かか
るといわれている。



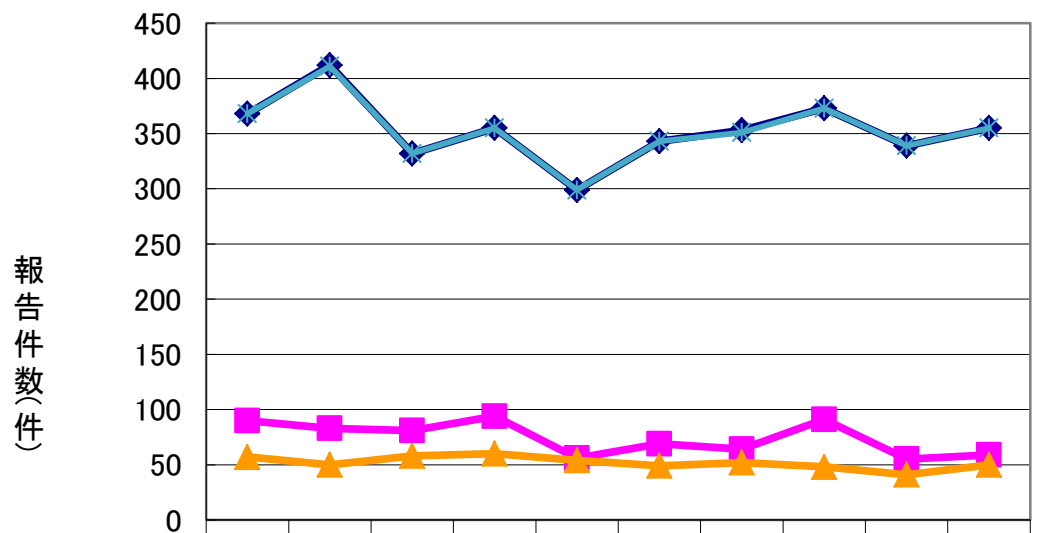
◆ 日本・男性	454	488	413	446	353	407	415	451	363	386
■ 日本・女性	19	11	14	23	19	10	7	13	11	8
▲ 外国・男性	32	37	38	33	30	39	45	45	57	68
✧ 外国・女性	10	9	6	7	7	5	2	3	4	2
合計	515	545	471	509	409	461	469	512	435	464

日本国籍男性の報告数は、前年に比べて23件増加した。
外国籍男性の報告数は、前年から11件増加し、過去最高となった。
日本国籍女性と外国籍女性の報告数は、近年ほぼ横ばいで推移している。

図-3
HIV感染者及び
AIDS患者
推定感染経路別
推移
(過去10年)

ひとくち
メモ

その他、不明：
感染経路が不明
や複数であったり、
母子感染や
静注薬物使用の
可能性のある経
路などが含まれる。

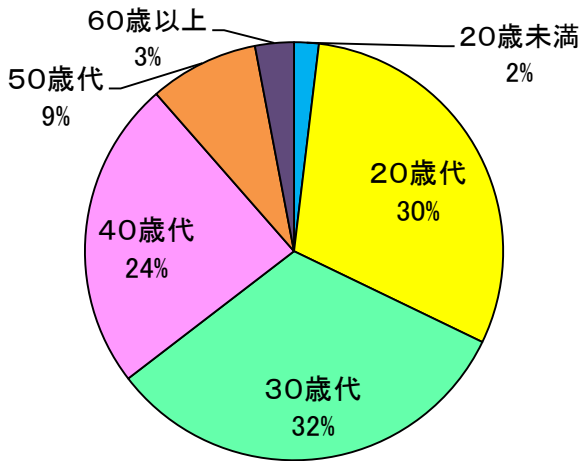


◆ 同性的な接触	368	412	332	355	299	343	353	373	339	355
✧ (上記の内 男性同性間)	368	411	332	355	299	343	351	373	339	355
■ 異性的な接触	90	83	81	94	56	69	64	91	55	59
▲ その他、不明	57	50	58	60	54	49	52	48	41	50
合計	515	545	471	509	409	461	469	512	435	464

同性的な接触による報告数は、前年に比べて16件増加した。
異性的な接触による報告数は、前年に比べて4件増加した。
静注薬物の使用が原因と疑われる感染が5件報告された。

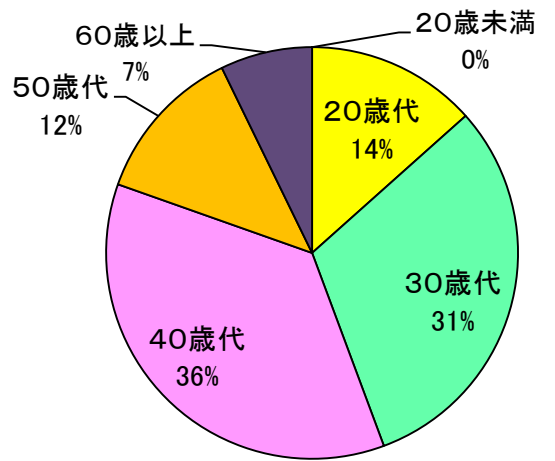
図-4
HIV感染者及び
AIDS患者の
年齢別割合
(平成28年)

(1) HIV感染者



	HIV(件)
20歳未満	7
20歳代	111
30歳代	119
40歳代	88
50歳代	31
60歳以上	11
合計	367

(2) AIDS患者



	AIDS(件)
20歳未満	0
20歳代	13
30歳代	30
40歳代	35
50歳代	12
60歳以上	7
合計	97

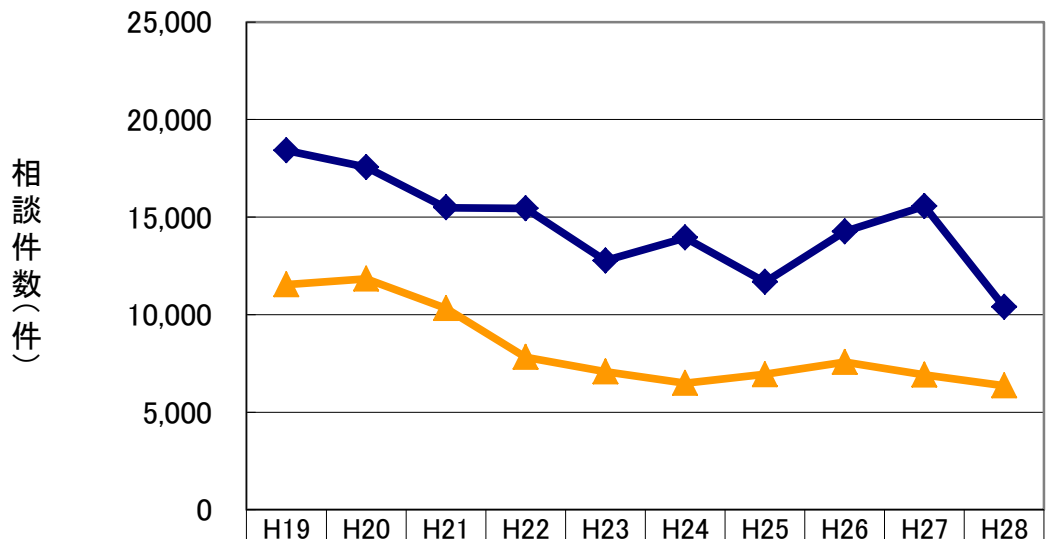
HIV感染者報告数は20～30歳代に多く、AIDS患者報告数は30～40歳代に多い。

2 相談・検査体制

図-5
エイズの電話
相談件数推移
(過去10年)

ひとくち
×E

東京都HIV/エイズ電話相談：
03-3292-9090
平日は午前9時から午後9時まで、
土・日・祝日は午後2時から午後5
時までHIV/エイズ相談に応じて
いる。



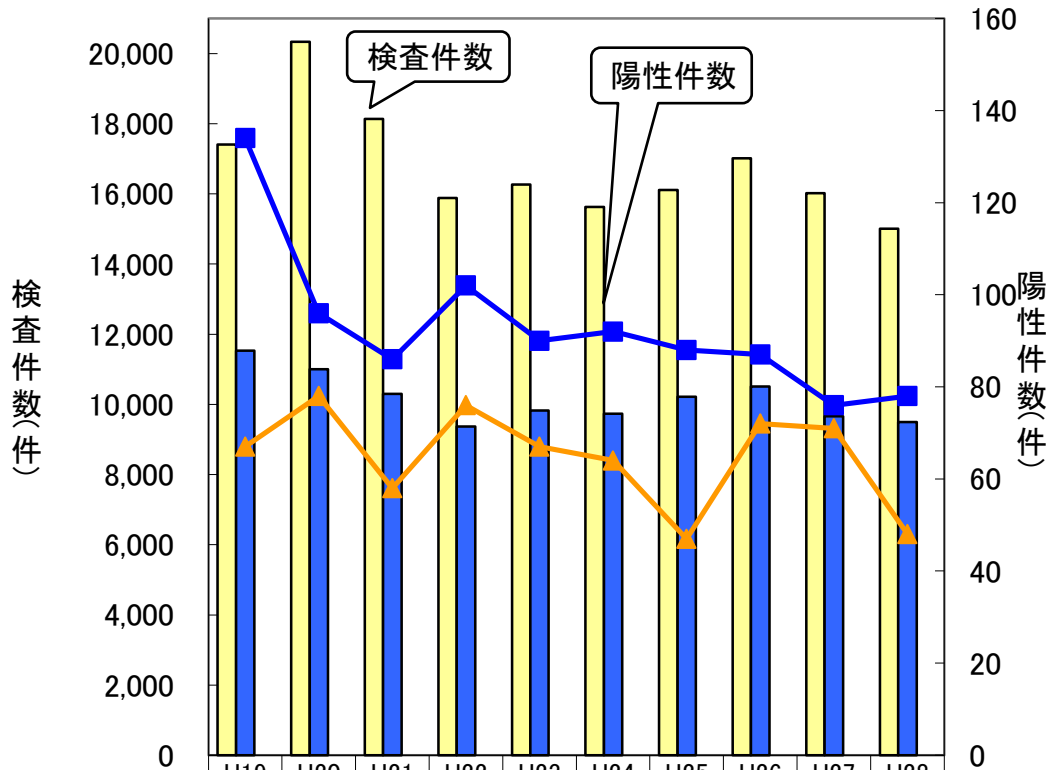
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
東京都HIV/エイズ電話相談	18,408	17,555	15,485	15,450	12,764	13,942	11,676	14,263	15,555	10,389
都内保健所	11,542	11,832	10,319	7,820	7,071	6,492	6,938	7,566	6,915	6,362
合計	29,950	29,387	25,804	23,270	19,835	20,434	18,614	21,829	22,470	16,751

平成28年の電話相談件数は、前年よりも約25%減少した。東京都HIV/エイズ電話相談は約33%減少し、都内保健所は約8%減少した。

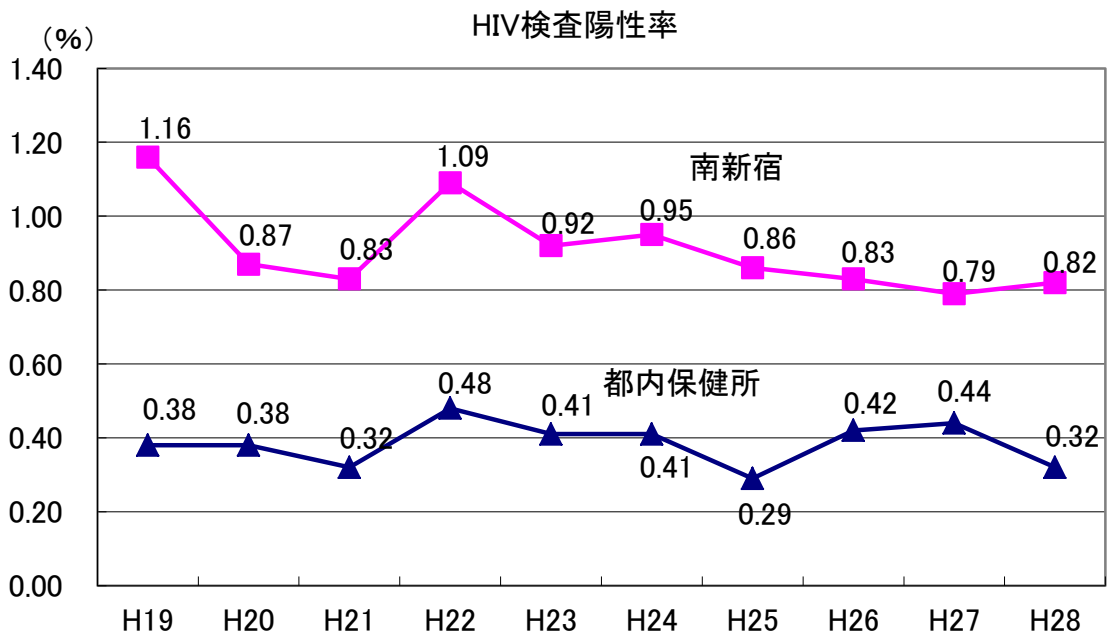
図-6
HIV検査件数、
陽性件数及び
陽性率推移
(過去10年)

ひとくち
メモ

東京都南新宿
検査・相談室：
新宿駅南口すぐ
そばに位置する
無料・匿名でHIV
検査が受けられ
る検査機関。
平日午後・夜
間、土日午後に
検査を行っている。
事業は、東京都
医師会に委託し
ている。



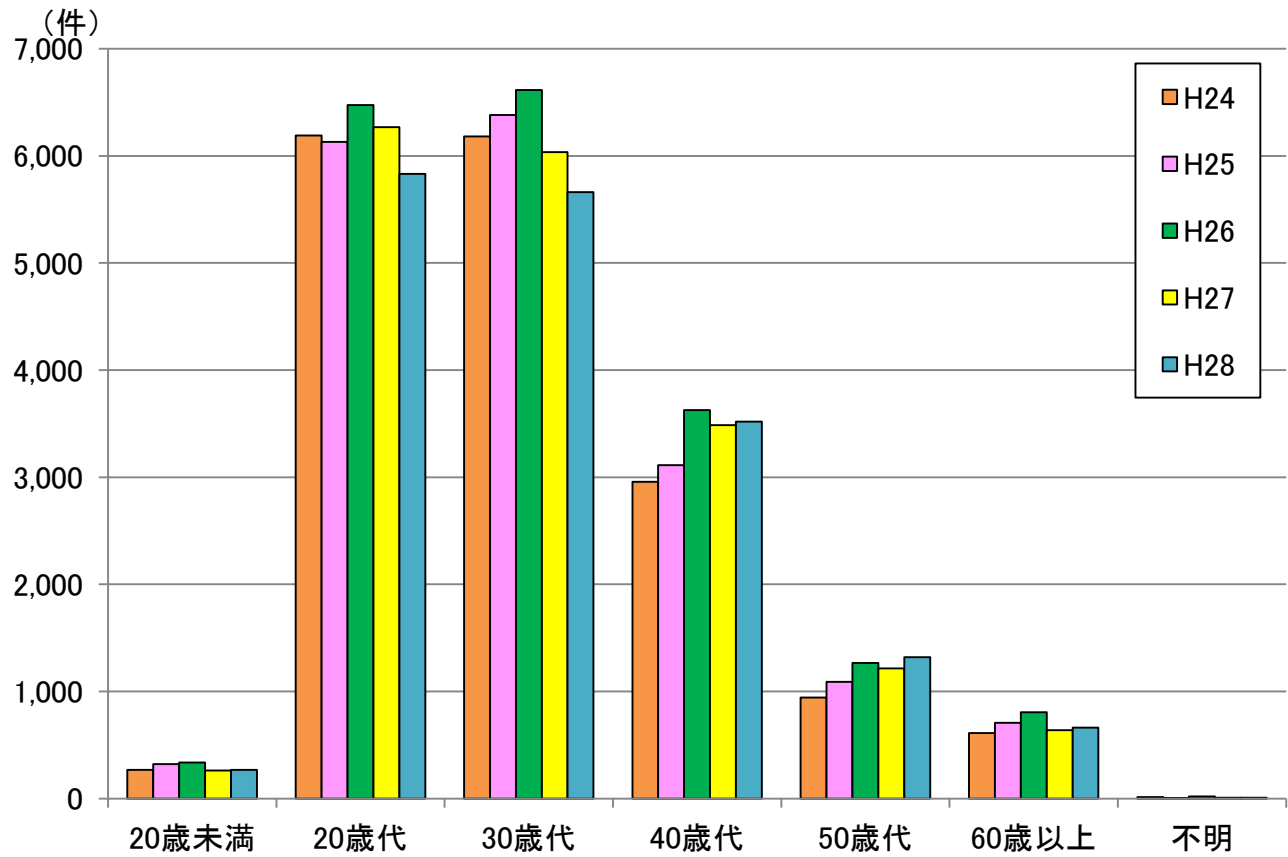
都内保健所検査件数	17,406	20,339	18,136	15,881	16,265	15,631	16,115	17,019	16,022	15,007
南新宿検査件数	11,530	11,006	10,300	9,368	9,827	9,732	10,218	10,512	9,662	9,501
検査件数合計	28,936	31,345	28,436	25,249	26,092	25,363	26,333	27,531	25,684	24,508
都内保健所陽性件数	67	78	58	76	67	64	47	72	71	48
南新宿陽性件数	134	96	86	102	90	92	88	87	76	78
陽性件数合計	201	174	144	178	157	156	135	159	147	126



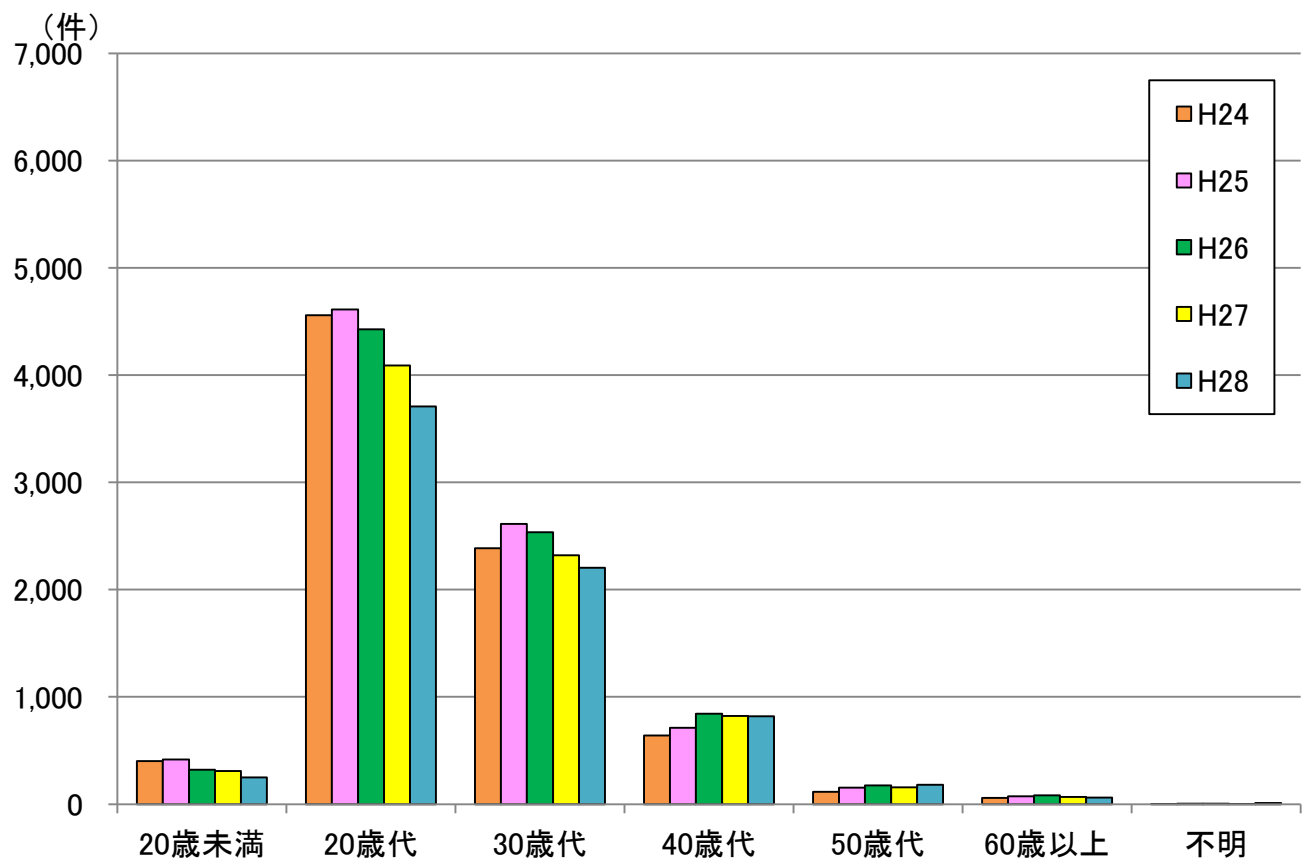
平成28年のHIV検査件数は24,508件で、前年に比べて1,176件、率にして約6%減少した。検査件数を前年と比べると、都内保健所は1,015件、南新宿検査・相談室は161件減少した。
また、陽性件数は126件で、前年に比べて21件減少した。

HIV検査年齢別受検者数の変化(過去5年)

(1) 男性



(2) 女性

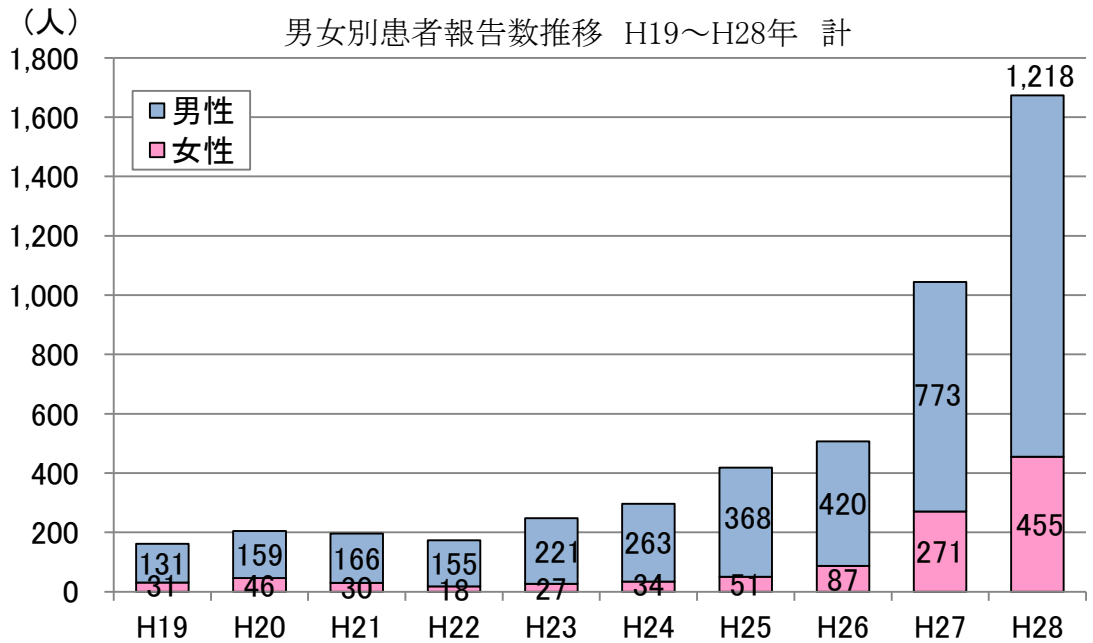


3 他の性感染症情報「東京都の梅毒の動向」

図-7
梅毒の患者
報告数推移
(過去10年)

**梅毒の
基本①**

梅毒は、梅毒トレポネーマが原因で起こる慢性の感染症で、過去の病気と思われがちですが、近年患者数が増加しています。性行為の時などに粘膜や皮膚の小さな傷から感染します。



—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

患者報告数は平成23年から増加に転じ、平成28年の患者報告数は平成29年1月11日現在1,673人で、感染症法に基づく調査が始まって以来、最も多くなっている。

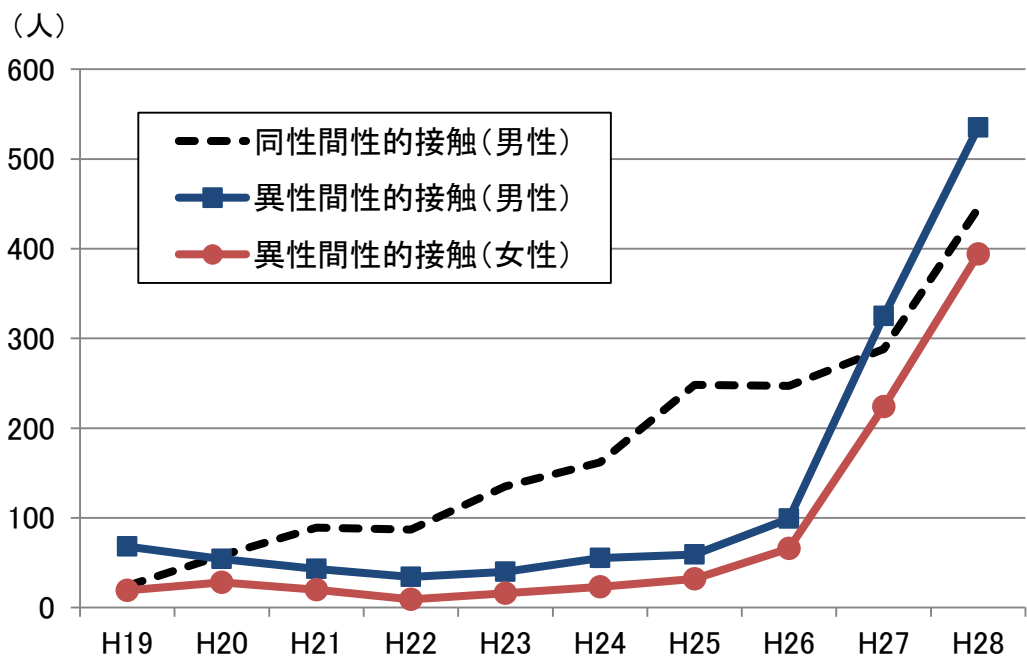
図-8
推定感染経路別の
推移(過去10年)

**梅毒の
基本②**

梅毒に罹患すると、全身に様々な症状が出ます。

早期の薬物治療で完治が可能ですが、検査や治療が遅れたり、治療しないと、脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあります。梅毒に感染している人が妊娠すると、早産や死産、胎児に重篤な異常をきたすことがあります。

時に無症状になりながら進行するため、完治するまで治療を中断しないことが重要です。



—感染症サーベイランスシステム(平成29年1月11日現在)—

近年、男性の同性間性的接触による患者報告数が多かったが、平成26年以降では、それに加え、男女共に異性間性的接触による患者報告数が急増している。

図-9
年齢別患者
報告数の変化
(過去5年)

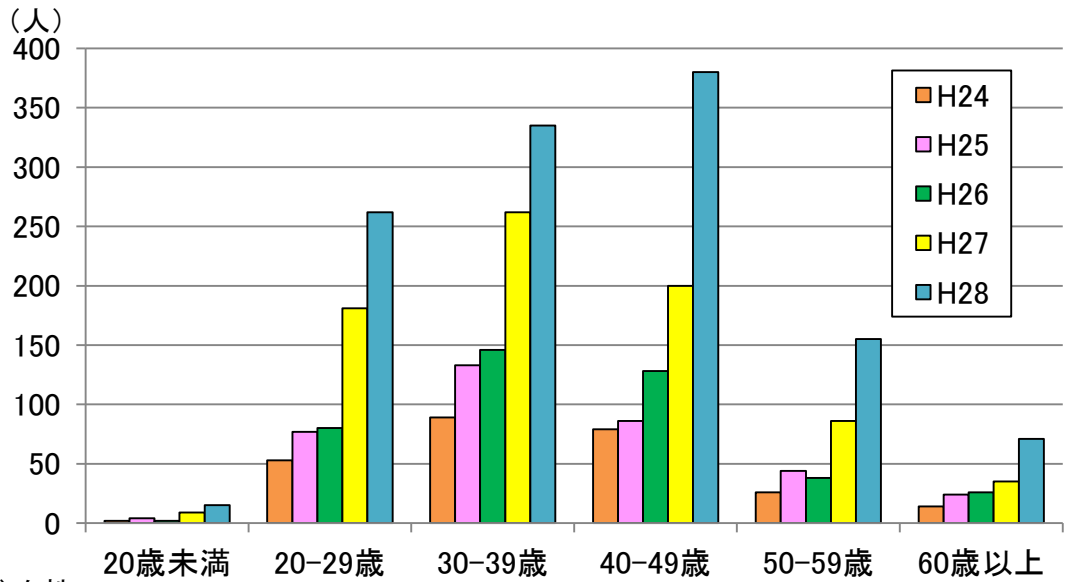
**梅毒の
基本③**

梅毒の感染予防：
コンドームの適切な
使用が有効ですが、
コンドームが覆わ
ない部分で感染する
可能性があるため、
異常があった場合
は早めに医療機関
を受診しましょう。
完治しても再び感
染することがある
ので、パートナー
と一緒に検査・治
療を行うことが必
要です。

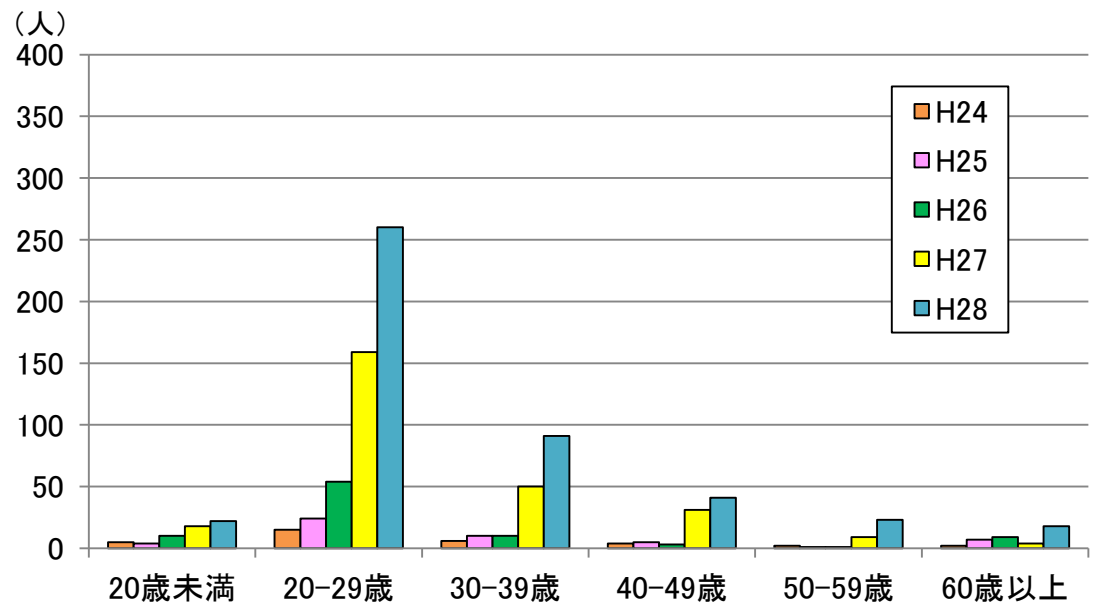
**梅毒の
基本④**

梅毒は、発症と潜
伏を繰り返すため、
感染初期に発見で
きない場合があります。
感染の不安、心当
たりがあるときは
早めに検査を受け
ましょう。
梅毒に罹患してい
るとHIVにも感染
しやすくなります。
梅毒検査と一緒に
HIV検査も受けま
しょう。

(1) 男性



(2) 女性



— 感染症サーベイランスシステム (平成29年1月11日現在) —

男性は20～50歳代に多く、女性は20歳代で急増している。

【梅毒検査の情報】 東京都HIV検査情報Web <http://tokyo-kensa.jp/>

【梅毒の流行状況】 東京都感染症情報センターHP 「梅毒の流行状況」
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/syphilis/syphilis2006/>

【梅毒に関する情報】
東京都福祉保健局発行「性感染症 (STI) ってどんな病気？」
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/koho/kansen.files/sti.pdf> よりダウンロードして使用できます。

厚生労働省HP 「梅毒に関するQ & A」

【発行】東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課エイズ対策担当
郵便番号163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-4487 ファクシミリ 03-5388-1432 e-mail S0000312@section.metro.tokyo.jp